

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号 36

I 自己評価

1 学校教育目標	「文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教育課程・学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	保護者の意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合（）内はR2年度）	
	教職員は学校経営や教育活動に熱心に取り組み、魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる。	61% (62%)
	本校の先生は、授業等をとおして学力が向上するように指導している。	64% (61%)
	学校はできるだけ選択授業や少人数授業又はオンライン授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している。	66% (69%)
	授業をとおして一人一人の能力に応じた指導を行っている。	49% (45%)
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) タブレットPCやオンラインの活用を含む、より効果的なICT機器の活用や、家庭での学習につながる授業など、「授業改善」への取り組みを行う。 (2) 学年と連携して「手帳」の活用や、自習室の活用を促し、学習に対する啓発をすすめる。 (3) 学習時間調査、考査の点数等で家庭学習時間や学習の成果を再確認する。 (4) 学習アワーを補充学習の場と位置づけ、成績不良者への適切な対応を行う。 (5) 行事、学校生活の様子や課題等の連絡を、適宜発信していく。 (6) HPを更新により学校の広報を行い、閲覧数を100,000を目標とする。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年会、教科会を中心に教科の指導方法・評価方法等を協議する。また授業見学、授業評価等の実施により授業改善に努める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業改善を目的とした授業見学および生徒による授業評価の実施。	(1) 授業評価の結果、授業見学の相互評価の結果の分析及び生徒の取組状況が把握できたか。	
(2) 「総合的な探究の時間」の体制作りと学年会、分掌との連携強化。	(2) 連携して「総合的な探究の時間」の年間計画の作成および実施ができたか。	
(3) 学年会等との連携による成績不振の生徒や学校不適応生徒の早期指導。	(3) 成績不振の生徒や学校不適応の生徒に早い段階で組織的対応ができたか。	
(4) 「手帳」を活用した指導の推進。日常の学習状況の把握と生徒支援。	(4) 学習時間の把握及び取組状況の観察ができ、学習への意識づけができたか。	
(5) 「学校案内」や説明会資料の作成、配布。HPを活用した情報発信や中学校訪問。	(5) 学校説明の実施や「学校案内」等の配布、HPでの学校の様子等の発信ができたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 各教科、各教師の取組を組織的に共有できるような授業評価、相互の授業見学の実施。 「手帳」等による日常の学習状況の把握による個に応じた学習支援の実施。 学年会等と連携した、成績不振者や欠席の多い生徒への早期指導の実施。 	授業改善、教師間での取組の共有ができたか。生徒の学習意欲に変化が見られたか。	A B C D
	学習中心の生活がなされたか。	A B C D
	成績不振の生徒、欠席の多い生徒に適切に対処できたか。	A B C D
11 成果・課題	・オンライン授業は昨年よりも円滑に対応できており、生徒にとっても効果的なものになっていると思われる。タブレットの使用も含め、教科間の授業見学や意見交換等の機会が設けられるとよい。 ・今未来手帳を使った学習への啓発のほか、その効果の検証が必要である。 ・中学生へのPRは十分に行うことができたが、一日体験等は、来年度も同じくらいの希望者がいた場合の対応を考える必要がある。 ・成績不振の生徒については、学習アワーを通じて根気よく指導することで、十分な対応につながったと考えられる。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 教科間の授業見学等の時間を設けるとともに、外部模試の結果なども授業改善の判断材料としていく。 手帳ガイダンス初任研(校内研修)の一つとして位置付ける。 成績不振者への指導は、学習アワーのほか学習の記録を通じて行う 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年3月1日

【意見・要望・評価等】

- 手帳の活用について、何のために「いつ、どこで、誰が、何をする」といった現場レベルでの職員間の統一した方針があると活用しやすいと考える。
- ホームページを充実するために、各学年などで複数の担当者で更新していくとよい。また、インスタなどのSNSを活用したり、静止画だけでなく動画もアップロードしていくとよりアピールできる。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号	36
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	「文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。																									
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導																									
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">「肯定の比率」</td> <td style="text-align: center;">「否定の比率」</td> <td style="text-align: center;">「不明の比率」</td> </tr> <tr> <td>・モラルやマナーの指導</td> <td style="text-align: center;">↑90%(+8)</td> <td style="text-align: center;">↓5%(-6)</td> <td style="text-align: center;">↓5%(-2)</td> </tr> <tr> <td>・頭髪・服装等の指導</td> <td style="text-align: center;">↑90%(+11)</td> <td style="text-align: center;">↓7%(-6)</td> <td style="text-align: center;">↓3%(-5)</td> </tr> <tr> <td>・いじめに対する指導</td> <td style="text-align: center;">↑87%(+8)</td> <td style="text-align: center;">↓5%(-2)</td> <td style="text-align: center;">↓8%(-5)</td> </tr> <tr> <td>・情報モラルへの指導</td> <td style="text-align: center;">↑94%(+9)</td> <td style="text-align: center;">↓4%(-5)</td> <td style="text-align: center;">↑1%(-5)</td> </tr> <tr> <td>・遅刻防止への指導</td> <td style="text-align: center;">↑90%(+5)</td> <td style="text-align: center;">↓7%(-1)</td> <td style="text-align: center;">↓3%(-4)</td> </tr> </table>			「肯定の比率」	「否定の比率」	「不明の比率」	・モラルやマナーの指導	↑90%(+8)	↓5%(-6)	↓5%(-2)	・頭髪・服装等の指導	↑90%(+11)	↓7%(-6)	↓3%(-5)	・いじめに対する指導	↑87%(+8)	↓5%(-2)	↓8%(-5)	・情報モラルへの指導	↑94%(+9)	↓4%(-5)	↑1%(-5)	・遅刻防止への指導	↑90%(+5)	↓7%(-1)	↓3%(-4)
	「肯定の比率」	「否定の比率」	「不明の比率」																							
・モラルやマナーの指導	↑90%(+8)	↓5%(-6)	↓5%(-2)																							
・頭髪・服装等の指導	↑90%(+11)	↓7%(-6)	↓3%(-5)																							
・いじめに対する指導	↑87%(+8)	↓5%(-2)	↓8%(-5)																							
・情報モラルへの指導	↑94%(+9)	↓4%(-5)	↑1%(-5)																							
・遅刻防止への指導	↑90%(+5)	↓7%(-1)	↓3%(-4)																							
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 遅刻：不注意による遅刻を一日当たり0.3件以下に抑える。 ② 交通安全：年間の交通事故を10件未満に抑える。																									
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 担任、学年団と連携し、遅刻の多い生徒に対し個に応じた生活改善の指導を実施する。 ② MSLによる街頭活動やポスター制作、LHRを活用し交通安全の啓発に努め、日常生活におけるルール、マナーを遵守する精神を養う。																									
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																									
<ul style="list-style-type: none"> ・5分前登校のための遅刻指導 ・年5回の身だしなみ指導 ・スマホ携帯の利用についての指導 ・毎月一回以上のスクールカウンセラーとの面談 ・交通安全講話とMSリーダーズの交通安全啓発 ・いじめ迷惑調査及びLHRでの啓発 ・生活実態調査における生徒の状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数及び遅刻の理由の把握 ・身だしなみ指導と事後指導の状況 ・スマホ携帯利用のマナーカードでの指導状況 ・スクールカウンセリングによる生徒の様子 ・MSリーダーズの活動状況 ・交通事故の件数 ・いじめの実態の認知状況とその対応状況 																									
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																								
<ul style="list-style-type: none"> ・予鈴遅刻5分前の遅刻指導による遅刻の減少 ・身だしなみが極端に乱れた生徒の減少 ・カウンセリングによる心の悩みのケア ・スマホ携帯を利用しないことの啓発 ・交通事故防止の啓発活動の実施（MSL等） ・いじめアンケート等によるいじめ未然防止 	①遅刻者の人数 ②身だしなみの状況 ③カウンセリングの状況 ④スマホ携帯の利用状況 ⑤交通事故の件数 ⑥いじめ認知と対応状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D																								
11 成果・課題	○身だしなみ点検は現在の形式で十分に機能してかつ教師の負担も少ない。 ○欠席者・遅刻者数は今年度も評価することが難しい。 ○▲生活実態調査を行い生徒の生活状況を把握し、スマホ依存・生活リズムなど改善が必要な生徒への早期の指導ができたが、効果が見えない生徒もいた。 ○▲スマートフォン使用でのマナーカード指導件数は昨年度5件、今年度6件と少数だが増加。学習にタブレットを使用する生徒の増加に伴い、スマホルールの徹底と、スマホとタブレットの使い分けに関する指導を行う必要がある。 ○スクールカウンセラーだけでなく、年度中に配置された相談員を活用したカウンセリング等、生徒を支援する体制は整った。 ○いじめアンケートによるいじめの認知が減少しているのは、アンケートに頼ることのないいじめの認知が懇談等で出来ているためであると考え。																									
12 来年度に向けての改善方策案	○交通事故の増加を食い止めるために、交通講話等で交通安全の基本事項の大切さを伝える。 ○遅刻を含めた時間を守り計画的に行動できる指導方法について検討を行いたい。 ○問題行動の対応は、兆しを見逃さず初期段階よりチームで動く生徒指導体制を確立する。 ○カウンセリング体制が十分機能するように、学年会等との連携の在り方を検討する。 ○いじめの認知と認知後の対応について、教職員の共通理解の下で取り組んでいく体制を構築する。 ○スマホ使用ルールの徹底を図るため、4月5月に重点的にルールを啓発する。																									

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年3月1日

【意見・要望・評価等】 ・問題行動の対応については、その背景にしっかりと目を向け、生徒自身の行動改善に繋げることが大切である。 ・スマートフォンの校内ルールは、生徒がスマホ依存に陥らないので現状でよいと感じる。
--

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号	36
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	「文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「よくあてはまる」「ややあてはまる」合計の比率 (%) ・学校は進路説明会など保護者が必要とする進路状況を提供する場を設けている。→ 保護者72% (前年64%) ・学校は、生徒の新路希望に添った適切なアドバイスをしている。 → 保護者64% (前年59%) →保護者向けのオンライン講演会が印象的な内容であったことや、各担任が生徒・保護者とよく向き合っていたことによるものと考え。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒一人ひとりの希望に細かく対応し教職員全員による指導を推進す。 ・進学校としての進学実績の向上と安定に努める。 ・生徒に生き方なり方を考えさせ、勤労観・職業観を育てるための活動を計画的に配置し実施する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・希望する進路実現達成のための担任による個別面談の継続及び、全職員体制による小論文指導・面接指導・添削指導・補習授業等のきめ細かな進路指導を実施する。 ・学年会と連携を取りながら、総合的な学習（探究）の時間の充実させ、主体的な学習姿勢の涵養を図る。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①進路情報の提供や進学意識の喚起 大学説明会や出前講座、進学講演など	①説明会や公演実施後の感想など		
②学力向上のための指導 放課後補習、土曜講座、外部検定の指導、体外模試の実施など	②補習・土曜講座の受講数、生徒の取り組みの様子、担当者の実感、模試の結果などなどの結果分析		
③3年生の進路指導を学年の総意をはかりながら、国公立大学の総合型選抜や学校推薦型入試に受験を促す	③国公立大学の総合型選抜や学校推薦型入試の出願数。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①大学説明会や進路講話を積極的に実施し、情報提供と進学意識の高揚を図った。	①有益な情報提供を実践し、進路意識を高揚させられたか。	A (B) C D	
②特に3年生の平日補習の受講生が多く、積極的に取り組む生徒が多かった。	②学力向上の指導が実践できたか。	A (B) C D	
③国公立大学の総合型選抜や学校推薦型選抜に出願する生徒が増えた。	③総合型推薦型の国公立大学出願数が増えたか。	A (B) C D	
11 成果・課題	○3年生の進路実現のための進路実現戦略会議を行うことで、学年全体で個別生徒の進路実現に向けた指導を協働的に実践できた。 ○外部講師などを活用して進路を考える機会を多く提供することができた。 ▲模試の結果をもとに志望校を再考する生徒達に対して、適切な模試結果分析や情報をタイミングよく提供できなかったため、高い進学目標を維持できない面があった。 △低学年次の進学意欲を高揚させる仕掛けが不十分であった。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
・1・2年次に高い進学目標を設定できるような仕掛けを学年と協働して計画する。 →スタディサポートを活用して、早い段階での目標設定と学習習慣や学習方法の見直しを図る。 ・1・2年次の総合探求の内容を学年と共有し、キャリア学習としての意義を高める。 ・総合型・学校推薦型選抜の実績を上げるために、他校の実践例などに学び、指導の方法を研究する。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年3月1日

【意見・要望・評価等】 ・オンラインを利用した進路説明会や保護者向け講演会など、情報提供の仕方としては素晴らしいと感じる。 ・1年、2年のキャリア教育を、外部機関を含めて連続させながら更に充実していくとよいと思われる。 ・担任と進路指導部が太いパイプをもち、個人懇談を通じて個に応じた進路支援を充実していく必要がある。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号 36

I 自己評価

1 学校教育目標	「文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。			
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動			
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事について、感染症予防対策を講じて適切に計画・実施している評価は8割以上のご理解をいただいた。同時に生徒会活動もコロナ禍の状況で考える事が増え、活動の活発化が見えてきている。(生徒会活動が活発である：R1:45% → R2:51% → R3:74%) ・学習と部活動の両立や生徒の健康管理を考え、部活動方針やガイドライン等の運用で部活動の時間的制約はできているが、狭く、水はけが非常に悪いグラウンド・コートがある。 ・コロナ禍で生徒に紹介できるボランティア活動は殆ど無かった。 			
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症予防対策を講じた学校・生徒会行事の実施と支援。 ○ 部活動ガイドラインを踏まえた適切な活動運営。 			
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の日程を離し協力体制の強化。 ・ 各行事における部活動との連携。 ・ 年間計画や月間計画の周知。 			
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
(1) 生徒会執行委員会への支援 (2) 各種委員会の充実 (3) 主体的な部活動運営	(1) 学校アンケート(保護者・生徒) (2) 生徒会意見箱への投書 (3) リーダー研修・部活動部長会議			
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症予防対策のため、球技大会は学年別での実施。文化祭は1ヶ月遅れで、入場人数制限をかけながらの実施。 ・ 全校をリードできるリーダー研修の充実。 	① 社会情勢をふまえた判断・行動ができたか。 ② 役割に応じた主体性と協力ができたか。 ③ 生徒の支援が十分できたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D		
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 球技大会は各学年2時間弱ではあったが、クラスが団結して競技に向かい、笑顔があふれ元気いっばいの取り組みができた。 ○ 文化祭は考査直後に短期集中型で準備を進め、素晴らしい発表ができた。 ○ 生徒会の各委員は全校を立派にリードした。献身的な働きであった。 ○ リモート用機材も工夫し、なんとか鑑賞できるレベルになった。 ○ 部活動ではボート部の全国優勝をはじめ、全国総体・全国総文祭や東海大会出場もあり健闘している。 ▲ 体育祭の復活。全校での球技大会。 		総合評価 (A) B C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育祭を6月に計画・実施。 ・ 文化祭でのリモート配信の更なる工夫と新しい発表スタイルの模索。熱中症対策。 ・ 部活動の推進と学習主体の学校生活の支援。 ・ 部活動数削減の継続検討。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年3月1日

【意見・要望・評価等】

- ・ コロナ禍であるが、アンケート結果から生徒会活動が年々と活発になってきている様子が伺われ、素晴らしいと感じる。
- ・ 生徒は部活動に積極的に参加し、いろいろな方面で活躍している様子がわかり、今後も継続して行ってもらいたい。